

## えま 絵馬

種 別	小松市指定文化財 絵画
指定年月日	昭和54年11月2日
所 在 地	本折町（本折日吉神社）

この絵馬は江戸中期に描かれ、本折日吉神社に奉懸されたものである。画題は『太平記』の「大森彦七事」で、楠木正成を討った大森彦七の元に、鬼女となった正成の亡霊が現れ、彦七が奪った宝剣・菊水を取り戻そうと襲いかかった鬼気せまる場面を描いている。縦107センチメートル、横204センチメートルの大作である。

画面の右上に大きく「奉懸」、左上に「御神前」と書かれ、右側に「越前守元信六代孫狩野法橋藤原俊信行年七十六歳筆」と落款がある。また左側には「宝永八年<sup>辛卯</sup>曆正月吉日 敬白」と記される。

年号の宝永8年であるが、宝永7年11月に正徳と改元されたため、宝永8年は存在しない。よって、この画は改元前に完成して宝永8年を予想して元号を書き、翌正月に奉納されたものと思われる。

作者の藤原俊信は、徳翁斎とも称して加賀・能登で活躍した画家で、その作品は県下多くの寺社に十数点が現存する。しかし、俊信の詳しい画歴は分かっておらず、生没年等も不明である。

額は横長の檜板を8枚つなぎ合わせ、下地を塗った後に金箔を貼っている。人物の絵は墨と岩絵具で描かれ、豪快な姿をみせている。一部後年に修復した箇所もみられるが、絵馬としての構図、筆致ともに優れた作である。

